

3年生の皆さんへ

家庭学習の手引き

【令和5年度版】



不動中学校 年 番

氏名

学力をつけるためのポイント

① 学力の基盤は生活習慣

学力というものは毎日こつこつと努力を積み重ねることではか身につきません。そのためにはまず**生活習慣**を整えることが重要です。

生活のリズムが乱れていては学習を続けることができなくなり、学力が身につきません。学力を身につけるには生活習慣が大切であることを意識して生活しましょう。

1. 体調を整える。健康第一。
2. 3度の食事をきちんと取る。
(特に朝食。朝食を摂らないと脳が活発に働かない。)
3. 遅刻をしない。(自分で起きる)
4. 忘れ物をしない。(持ち物は前日にそろえる)
5. 夜遅くに勉強しない。1時を越えない。

② 学校での学習

まずは**授業が勝負**です。

「分かりたい」という気持ちをしっかり持って、授業に臨みましょう。

1. 先生の話や友達の意見をしっかり聴く。
(ノートを書きながら聴くと内容は頭に入っていない。)
2. わからないことは、その授業があった日に解決しよう。
(先生や友達に質問しよう。質問する力も学力のうち。)
3. 進んで発表する。
(発表したことはよく覚えられる。)
4. ノートは授業中にまとめる。
(黒板を写すだけでなく、ポイントなどはメモを取る。)
5. まちがいはチャンス。
(間違ふことで、内容が強く印象に残ります。)

☆3年生の学習は、1、2年生の復習と3年生で習うことを同時進行で行いましょう。家庭では1、2年の復習を中心に学習し、3年生の内容は授業で覚えるつもりで取り組み、余った時間で復習しましょう。「千里の道も一歩から」

③ 家庭での学習

たとえ宿題がなくても、毎日の家庭学習が大事です。それは授業で理解したことについて時間をかけて覚え、何回も解き、練習することが必要な教科もあるからです。だらだらと長い時間をかけるより、**集中して取り組む**ことが必要です。毎日必ず家庭学習を行う時間をつくりましょう。目安は3時間。

1. 宿題は必ずする。

2. 学習を習慣化する。

決まった時間に、決まった場所で学習する。遅くまで勉強しても思ったほど効果は上がりません。それどころか生活のリズムを乱し、朝起きられなくなります。さらに学校の授業が集中できず、悪循環になってしまいます。

3. テレビを見ながら・・・、音楽を聴きながら・・・スマホをいじりながら・・・といったような「ながら」勉強はしない。

テストも受検も静かな環境で受けます。だからこそ、集中できる環境で勉強しましょう。

4. 自分にあった学習の仕方を工夫・改善する。

教科書や参考書をただぼんやり眺めていても効果は上がりません。声を出して読んでみたり、ノートに何度も書いたりして覚えよう。また、要点をノートにまとめ、覚えられたかを問題を使ってチェックをすることでより内容が定着できます。

5. 『自主勉強ノート（整理と対策）』を、毎日提出をする。

6. 「整理と対策」以外に自分にあった問題集を購入して学習する。

問題を解いたら必ず答えを確認し、間違えたものは2度、3度とやり直し、同じ間違いを繰り返さないための学習が大切です。

では、各教科の学習の仕方を参考に効果的な勉強を続けよう。

「継続は力なり」

国語の力をつけるためのポイント

～苦手を克服するために～

～授業でのポイント～

- ① 授業に前向きに取り組む。
(私語をせず、よく話を聴く。忘れ物をしない。提出物は期限を守って必ず出す。)
- ② 自分の意見をしっかり書いたり、発表したりする。
- ③ 授業で「分からないな。」と思ったら、そのままにせず、質問する。

～みなさんの悩みから～

Q. 国語の記号問題を攻略するには？

A. 正解を探すのではなく、間違いを探して消去法で選ぶこと。

出題者は、1つの選択肢の中に、正しいことと、間違っていることを一緒に入れて惑わそうとします。つまり、正解だけを即座に見つけるのはとても難しいということです。間違いが1つでも混ざっていれば、その選択肢を消去し、残ったものが答えになります。

Q. 古文・漢文を攻略するには・・・

A. ①必要単語を覚える。→ ②主語を意識して読む。→ ③古文に慣れる。

- ① まずは必須の単語を覚えましょう。ただし、古文は全ての単語が分からなくても十分、パーフェクトは狙えますから、本文に出てきたものを全て覚える必要はありません。
- ② 古文が苦手になってしまう最大の原因は、「主語が分からなくなる」ということにあります。古文では、主語が省略されていることが多く、誰が動作しているのかが分かりにくいのです。

主語を見極めるポイント

1. 「の」に注目する。

古典の中に出てくる「の」は、「が」に置き換えられることが多く、その上に主語となる人物がくることがある。

2. 「と」に注目する。

会話の部分に「 」がついていないことが多いのも古文の特徴です。「と」に注目することで、会話文を判別しやすくなり、おのずと主語も分かるようになります。

- ③ 古文・漢文は、中学校の3年間でふれる回数が他の文章に比べて少なく、みなさんになじみがありませんから、不安になるのも当然。ただし、それはどの中学生にもいえることなので、裏を返せばチャンスともいえます。なぜなら、みなさんには、PUTがあるからです。PUTでは、みなさんに数多くの古典の問題を解いてもらいます。

しっかり慣れましょう。

Q. 作文が書けるようになるには・・・

作文が書けない理由は、大きく分けて3つあります。まずは、自分がどのタイプかを見極めてください。

- ① 書く内容はあるが、書き方が分からない。
- ② 書く内容がないので、書けない。
- ③ 書く内容がないし、書き方も分からない。

A. ① 作文の書き方のプリントを参考に形を覚えてみる。

② 作文の条件をよく読み、出題者の立場から書くべき内容を決める。

※書くべき内容は、条件の中に書かれています。

毎日の生活の中で自分が考えたことがないことを考える機会をつくる。

- ① 作文は減点方式で採点されます。自分で文章を作るのが苦手な人は、ぜひ、型を覚えてそれを応用してみてください。
- ② 作文で見られるのは「書く力」です。「お題の内容が書けない…」という理由は、「今までに考えたことがないから」という理由が多いものです。この1年で、自分が普段考えないようなことにもしっかりと目を向けて自分の「意見」とその「理由」をもつクセをつけましょう。

(例) 「自分が一番大切にしているものは何か」

「人とのコミュニケーションで最も大切なことはなにか。」など

☆『整理と対策』の使い方 ☆

- ① 解き方やポイントをまとめてあるページを中心に、ノートにまとめ直してみる。
(特に、文法や熟語、漢字などは何度も繰り返し学習して覚え込むこと。)
- ② 文章問題は必ず2回以上はやる。
※ただし、何度も繰り返しやって内容を覚えてしまっただけでは意味がありません。
同じ問題に取り組む際は、ある程度の時間をおいてからにしましょう。
- ③ 分からなかった問題は決してそのままにせずに、自分で調べたり、先生や友だちに聞いたりして必ず分かるまで取り組みましょう。

学習は一朝一夕に成果が上がるものではありません。毎日の努力が大切です。

数 学 科

効果的な勉強の仕方のポイント 整理と対策の利用の方法

数と式・・・毎日、5問でもいい！計算は訓練！

- ① まず、自分の力で解く。解き方がわからないときは、さっさと答えをみて解き方を確認すること。時間をかけて悩まない！
- ② 途中の式は必ず残しておく。
誤答のチェックをするときに役に立つ。
- ③ 答えをよく見て、間違えた問題だけチェック！
問題の方に印をつけておいて、自分の苦手な計算の種類を知る。
- ④ もう一度、間違えたところを解く。
(間違えた問題は印をつけておく。)

必ずマスターしておきたい計算
1年・・・正・負の計算，文字式，
方程式
2年・・・連立方程式，等式の変形
3年・・・展開公式，因数分解，
平方根，二次方程式

まずその日、2日後、1週間後、日をおいて、繰り返し解こう。

関数・・・解き方のパターンの代表は“代入“

似ている問題を多く解いて，“初めまして”の問題を減らそう。

関数確認ポイント（基本的な技能）

- 座標がとれるか。 例，点 $(-1, 2)$ は，座標軸のどこの位置？
- 比例，反比例，一次関数，関数 $y = ax^2$ の式の形を言えるか。
- 「関数の式をつくる」問題がマスターしているか。
- 変化の割合，変域，交点の座標を求める問題がマスターしているか。
4つクリアできたら，実力テストに出るような大問をやっけていこう。
時間をかけてもわからない問題は解説をみる。

解説をみて，解き方の方法を知る。分からないときそのままにしておかず，先生に必ず質問をする。

資料の活用・・・この分野を軽く扱わないようにしましょう。

確認ポイント

- 度数分布表，ヒストグラム，階級値，中央値，平均値，最頻値，範囲が求められるか。
- 有効数字の理解ができているか。
- 確率の求め方・・・樹形図と表が書けるか。
- 箱ひげ図を読み取ることができるか。

図形の分野・・・似たパターンの問題は多い。“初めまして”の問題を減らすこと

図形確認ポイント

- 垂直二等分線・角の二等分線，垂線の作図ができるか。
- 平行移動，回転移動，対称移動の作図ができるか。
- 投影図や回転体から立体の名称が答えられるか。
- 円錐，円柱，三角錐，(正)三角柱，(正)四角錐，(正)四角柱の立体の見取り図と展開図がかけるか。
- 円錐と円柱の表面積と体積が求められるか。
- 対頂角，錯角，同位角を使って角度が求められるか。
- 二等辺三角形，直角三角形，正三角形，平行四辺形，円の性質を理解しているか。
- 三角形の合同及び相似，直角三角形の合同，平行四辺形になる条件がいえるか。(証明のパターンを覚えているか。)
- 円周角の定理と三平方の定理で，角度及び値を求めることができるか。
チェックが入らない所を，夏休みまでに整理と対策を使って，チェックが入るように**同じ問題を繰り返しやろう。**

図形は，じっと眺めていても問題は解けない。問題から得られる値などの情報を書き込んで解く癖をつけよう。

手も足もでない問題については，さっとあきらめて解説を見て解く。

Q 公式をどのように覚えていたら良いか。

A 図形の性質の理解で覚える。声にだして覚える。かいて覚える。

それを繰り返して，このパターンの問題の解き方は・・・だと解き方を知っていく。解説をみて分からないときは必ず先生に質問をする。

～今から数学の実力をアップするための五箇条～

- 一. 間違えっぱなしにしない。
- 二. 計算問題（問1）と大問の問1は確実に解けるようにする。
- 三. 大問の問2は，パターンで解き方を身につけようにする。
- 四. 実力テスト前に過去の実力テストで間違えた問題を再度解く。
時間を測ること，限りある時間の中で解く練習をすること。
- 五. 問題を読みながら，面倒くさいと言わず数直線や表をかいて関係を把握できるようにする。

社会

授業について

- 1 忘れ物をしない。
- 2 先生の話をよく聞く。
- 3 ノートにしっかりまとめる。

ポイント

- ・丁寧な文字で書き、後で使えるノートにしましょう。
 - ・見出しや学習課題をページの頭（最初）に書きましょう。
 - ・余白ができてもしっかり詰めないで、次の授業（単元）は新しいページから書き始めましょう。
 - ・自分の意見や自分で調べた内容は消さないで置いておき、他の意見や内容はさらに書き足すようにしましょう。
- 4 自分なりの意見を考え、表現する。
 - ・理由や根拠をもとに考えよう。

家庭学習について

【ふだんの勉強のしかた】

- 1 教科書を読み返しましょう。
教科書は最高の参考書です！！何度も読み返そう。
- 2 自主学習ノートに取り組みましょう。
 - ①教科書の本文を書き写す。
 - ②授業ノートをもう一度書いてみる。
 - ③テストブックの問題を解いていく。

【定期テストに向けての勉強のしかた】

- 1 早めにテスト勉強に取りかかる。
- 2 テストブックを繰り返ししよう。
 - ・答えを隠して何度もくり返し解いていきましょう。
 - ・自主学習ノートを利用し、答えを書いて覚えよう。

入試に向けて

1 授業を大切にしよう。

実力テストの点数を上げるためには、1，2年生の地歴の復習に時間をかける必要があります。だからといって、3年生の授業をおろそかにしてはいけません。3年生の授業の内容もちろん入試に出ます。できることをできる時間にしっかりと取り組むことが大切です。

2 今、使っている「整理と対策」をパーフェクトにやり遂げよう。

- ① 問題を何度もくり返し取り組みましょう。
- ② 問題に出てきたことがらを**教科書で確認**しましょう。
分からない問題や間違った問題は、答えを書き写すだけでなく、必ず教科書で調べてみることが大切です。歴史、地理、公民の教科書のどのページに載っているか、巻末の「さくいん」などを使って調べましょう。
- ③ 問題に出てきた**年表、資料（グラフや写真）、地図**を教科書などで確認しましょう。
最近の入試問題の傾向として、年表、グラフ、地図などの資料を読み取り、答える問題が多くなっています。「整理と対策」に出てくる資料が教科書に出ているかどうか確認しましょう。

3 実力テストや定期テスト、基礎学力テストをいかそう。

- ① 間違った問題を**必ずもう一度**しましょう。
- ② 問題に出てきたことがらを**教科書で確認**しましょう。
分からない問題や間違った問題は、答えを書き写すだけでなく、必ず教科書で調べてみることが大切です。歴史、地理、公民の教科書のどのページに載っているか、巻末の「さくいん」などを使って調べましょう。
- ③ 問題に出てきた**年表、資料（グラフや写真）、地図**を「整理と対策」や教科書などで確認しましょう。
最近の入試問題の傾向として、年表、グラフ、地図などの資料を読み取り、答える問題が多くなっています。資料を印象づけて、語句や内容を覚えていくとよいでしょう。

入試対策に近道はなし！

こつこつと、そして何度も繰り返すことが大切です！

理 科

理科学習のポイント

1. 基本用語を覚える

一問一答問題を一問でもいいので多く覚えること。何度も何度も繰り返し見直して覚えてください。基本用語そのものが解答になっている問題もありますが、基本用語が問題文の中に入っている場合もあります。このとき、基本用語を覚えていなければ、意味が分からず問題に取り組むこととなります。そのようなことでは、正解を導き出すことはできません。余裕があれば、解答だけを見て、問題を推測できるようにになればよりいいかも知れません。

2. 実験・観察を覚える

1～3年の教科書で紹介されている実験・観察は実は約60種類しかありません。まず実験・観察の図をなんとなくでいいので覚えます。次に実験・観察の注意点や使用する薬品名などを覚えます。最後に実験・観察の結果がどのようになるかを覚えれば完璧です。

3. 計算をマスターする

1～3年で出題される計算問題をおおざっぱにまとめると、
1年では、地震の発生時刻や震源距離、密度、質量パーセント濃度、圧力、フックの法則
2年では、飽和水蒸気量や湿度、金属と酸素が化合する量、電気（電圧、電流、電気抵抗の関係）
3年では、太陽の日の出や日の入りの時間、速さ、仕事になります。自分が取りかかりやすい分野から覚えていくといいと思います。

4. 身のまわりの現象に興味をもつ

理科は生活と密接に関係している教科です。ある現象に対して「なんでだろう」と疑問を持ち、それについて調べる。それで立派な理科の学習になります。身のまわりには「なんでだろう」と思うようなことがたくさんあります。何気なく過ごしていたことでも気をつけて見てみると何か気になることがあるかもしれません。

「整理と対策」について

何度も問題を解くことが重要ですが、分かっていたり、できた問題を何度も解く必要はありません。分からなかった、間違った問題を何度も解いて、分かるように、できるようになることが大切です。そうするためには分からなかった、間違った問題にチェックを入れ、後から解き直すときはチェックがある問題だけを解き直すと効率よく何度も問題を解くことができます。チェックが何個もある問題は自分にとって苦手問題であることがわかります。

○「整理と対策」中の計算問題の紹介

- ・ 質量パーセント濃度 P. 18, 19
- ・ 地震 P. 40, 41
- ・ 1年のキホン P. 48, 49
- ・ 化学変化と質量 P. 64, 65
- ・ 圧力 P. 88
- ・ 水蒸気量 P. 89
- ・ 電気 P. 98, 99
- ・ 2年のキホン P. 106, 107
- ・ 仕事 P. 134, 135
- ・ 計算問題集 P. 164, 165, 172, 173, 180, 181

勉強に近道はなし！

コツコツ毎日勉強すること！

英語

授業でのポイント

○集中して聞く。

授業では説明をしっかりと聞いて、重要ポイントを理解しましょう。

板書をきちんとしたうえで、説明で大事だと感じたこともしっかりとメモしましょう！

○声に出して発音する。

先生やCDの英語をよく聞いて大きな声で発音しましょう。発音練習をしっかりとすることはリスニング力も向上させます。

○いろいろな活動に積極的に取り組む。

英語はことばの学習です。ただ黙って座っているだけでは身につけません。

「読む・聞く・話す・書く」などの活動に積極的に取り組みましょう。

家庭学習のポイント

○授業で習ったところを、徹底的に復習する。

英単語・基本文・本文を声を出して読みましょう。その後で、覚えるまで何度も書きましょう。(単語カード・基本文カードを作り、定期的に自分でテストをすると忘れにくいです。)

教科書の各パートを学習した後はまとめとして、ワークや並び替えドリルをしましょう。

○予習をして授業をうける。

単語の意味調べをしたり本文を読んだりして、事前に知識を持って授業に臨みましょう。

○単語の覚え方

「整理と対策」の巻末には、重要単語や重要連語、3年間の基本文がのっています。声に出したり耳で聞いたり、書いたりして覚えましょう。自分でも覚えているかどうか、声に出したりノートに書いたりしてテストを試してみましょう。

○文法理解の方法

「整理と対策」で動詞・助動詞を扱った項目、不定詞・動名詞を扱った項目の説明文を何度も読み、例文をノートにまとめましょう。そうすれば、違いがわかると思います。次に名詞・代名詞の項目に進みましょう。形容詞・副詞は比較級と合わせてまとめましょう。さらに、前置詞や疑問詞をまとめましょう。

○活用してほしいもの

テレビの英語学習番組

『基礎英語を学んでみたら世界とつながった』…小学校英語から対応！

『リトル・チャロ』など(NHK)

ラジオ番組

『中学生の基礎英語』『中高生の基礎英語』『ラジオ英会話』など)